

本別町総合計画等に対する意見

令和6年11月26日(火)18:30～
道立農業大学校 下堀 亨

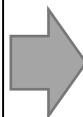
1 農業を核にしたムラおこしの超優良事例

県町村名	キーワード	主な内容
長野県 川上村	高品質レタス生産 と健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> レタスの鮮度保持や栽培技術向上、気象情報の提供等による高品質で消費地に速達できるシステムを構築。農家1戸当たり平均収入が2,500万円、後継者の定着により出生率が全国トップクラス。 「農業立村」宣言をし、安定した農業基盤のもと、保険・福祉・地域医療を一元化。介護予防等に取り組み年間医療費が全国の中でも極めて低い水準。
島根県 海士町	U・Iターン者による 地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ※ U・Iターン者（特に移住者は2000年以降累計1000名近く）が地元と一体となって、眠っている地域資源（岩牡蠣、なまこ、肉牛等）のブランド化、加工販売に取り組み。 ※ 高校の魅力化プロジェクトにより、島外からの生徒を呼び込み（公営塾設置）。入学者数（2008:28名→2014:59名）
高知県 馬路村	ゆずで村おこし	<ul style="list-style-type: none"> 人口1,000人に満たない山奥の村が、ゆずの加工販売に取り組み、現在では年商30億円、常時雇用80人以上に及ぶ。 当初は苦戦を強いられたが、デザイナーと出会い、「都会ができないこと、村の風と感動を届ける」をキャッチフレーズに、パッケージの改良、同封メッセージなど地道な努力によりヒット。

資料：内閣府ホームページの「個性を活かした地域戦略の取組」（事例集）などから、当方が抜粋

2 上記超優良事例に共通すること（まとめ）

- ① 条件不利地（山村、離島）でも成功（それを逆手にとる）
- ② 眠っている地域資源を掘り起こし、有効活用（特に高付加価値化、ブランド化）
- ③ 一次産業（農漁業）の成功（高所得）が、出生増・移住増、保健福祉の向上につながる
- ④ そのために、外部の知恵や技術を積極的に取り入れ
- ⑤ ムラおこしの端的でわかりやすいキャッチフレーズ
 - ・ 農業立村（川上村）、・ないものはない（海士町）
 - ・ ゆずで村おこし（馬路村）



3 本別町総合計画等に対する意見（私見）

- ※ 町民の皆様や委員などの御理解が前提ですが、左記を踏まえ、計画では、以下のような見直しが必要と考えます。
1. 施策別重点的な取組（農林業・商工業）の体系の中に、既存生産物の「ブランド力向上」や「高付加価値化」などの項目があっても良いのでは（既存事業の再掲でも良い）
 2. Uターンや移住者を呼び込むために、「住みたい・住み続けたい町」のような項目を設けて、子育て対策や移住促進策等を記載（再掲可）すべきではないか。
 3. 「日本一の豆のまち本別」をベースにして、「キャッチフレーズをリニューアル」など